



逆流性食道炎診断 治療センター 開設のご案内



消化器内科医長
阪口 博哉

2025年4月より、当院では「逆流性食道炎診断治療センター」を新たに開設いたしました。近年、逆流性食道炎（GERD）は生活習慣や高齢化に伴い患者数が増加しており、胸やけ、胸痛、のどの違和感、8週間以上続くせきなど多様な症状が現れる疾患として注目されています。

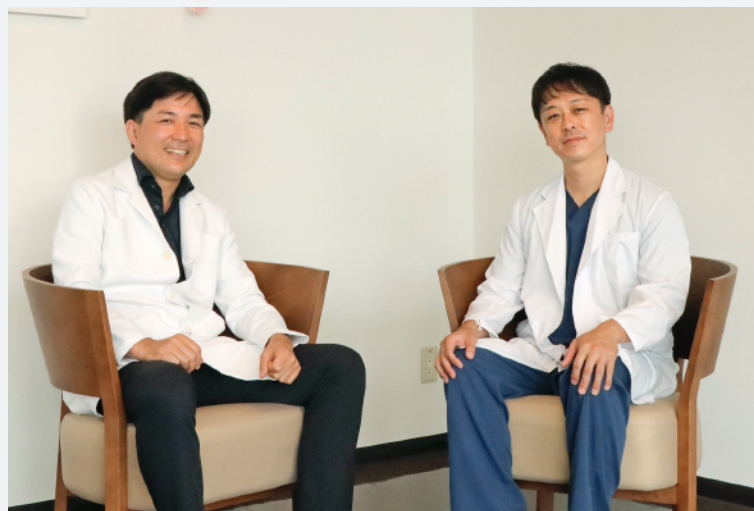
当センターでは、消化器内科と消化器外科が密に連携し、24時間インピーダンス pH モニタリング検査や食道内圧検査、消化管内視鏡検査を用いた精密診断を行い、病態に応じて内服治療、内視鏡治療（逆流防止粘膜切除術 Anti-Reflux Mucosectomy : ARMS）、外科治療（腹腔鏡下噴門形成術）などを適切に選択・提供いたします。これにより、内服（PPI）抵抗性の難治性 GERD や非びらん性逆流症（NERD）にも対応可能な、層の厚い診療体制を構築しています。

また、他診療科、栄養士、臨床心理士、薬剤師などとの多職種連携体制を強化し、食生活、精神心理的側面を含めた包括的アプローチを行います。逆流性食道炎は生活習慣や精神的ストレスとも深く関連しており、多角的な視点からの診療が求められます。患者さん一人ひとりの背景に寄り添い、QOL（生活の質・満足度）の向上を目指します。

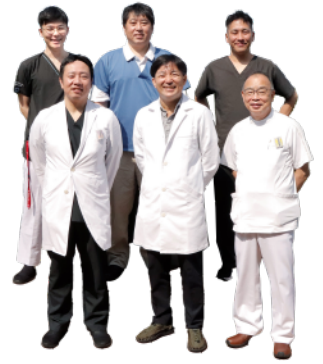
さらに、当センター長の北浜医師と私阪口は、食道良性疾患に対する全国的な学術研究会「Japan Foregut Study」の世話人を務めており、逆流性食道炎、食道裂孔ヘルニア、アカラシアをはじめとする食道良性疾患に対する専門的診療と臨床研究にも力を入れています。当センターは、食道良性疾患の診療・研究を全国的に牽引する施設としての役割を担っていくことを目標としています。

今後は、地域の医療機関との診療連携の強化にも取り組み、患者様の紹介を円滑に行えるよう整備を進めています。地域の開業医の先生からの早期診断依頼や治療後のスムーズなフォローアップが可能となるよう、情報共有体制も強化してまいります。

「食べる喜び」と「安心」をすべての患者さまに届けるために。逆流性食道炎をはじめとした食道良性疾患に苦しむ患者さんにとって、最適な医療を受けられる“安心の拠点”となるよう、専門性とチーム医療を融合させた診療を推進してまいります。皆さまの温かいご支援とご協力を、心よりお願い申し上げます。

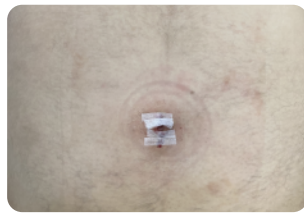


外科医師



腹腔鏡を用いた緊急手術への取り組みについて

Q：左図にお示しする写真は何の手術後のものでしょうか？



A：臍部に手術痕があり、単孔式（1か所のみ切開する）の腹腔鏡下虫垂切除が施行されています（専門医が見ても、手術痕だけで何の手術が行われたのか判断することはできません）

腹腔鏡下手術は小さな切開創から腹腔鏡（カメラ）と鉗子（いわゆるマジックハンド）などの手術器具を用いて行う低侵襲手術（※1）です。近年の腹部手術は、侵襲性を低減する試みとして、傷跡の小さな多孔式（※2）から単孔式（※3）の腹腔鏡下手術へ、さらに精密なロボット支援下手術への移行が大きな流れとなっています（ただし、一般の緊急腹部手術においてロボット手術の適応はありません）。

上記のQ&Aの単孔式の腹腔鏡下手術のメリットとしては、①美容性の向上…手術後の傷跡が目立ちにくい、②疼痛の軽減…複数の切開創と比較して、術後の疼痛が軽減される可能性がある、創感染リスクの低減…切開創が少ないため、創感染のリスクを低減できる可能性がある、などがあります。また、デメリットとしては、限られたスペース内

で複数の器具を操作するため、①高度な鉗子（※4）技術が必要、②器具同士がぶつかる、③視野の確保が困難となる、④手術時間が長くなるなどが挙げられます。侵襲性や美容性の追求は根治性と安全性が大前提となり、緊急で来られたすべての患者さまに腹腔鏡下手術をお勧めすることはできませんが、患者さまの状態や病態、手術の難易度など様々な要因を考慮して総合的に判断をし、最適な手術方法を提案してまいります。

（※1）体への負担（侵襲）をできるだけ少なくすることを目的とした手術のこと。従来の手術に比べて、皮膚や筋肉などを大きく切開せずに済むように工夫された手術方法
（※2）通常3〜5か所の小さな切開をお腹に作って行う手術方法
（※3）1つの小さな切開をお腹に作って行う手術方法
（※4）手術で使うつかむ・切る・剥がすなどの目的の器具

肛門疾患について

地域の医療機関からご紹介をいただける肛門疾患の患者さまが徐々に増加しており、2025年6月より日本大腸肛門病学会の指導施設の認定を受けております。緊急受診や入院が必要な患者さまは時間外でも積極的に受け入れを行っておりますので、おしりのトラブル等がございましたら、お気軽にご相談ください。



糖尿病・減量外科の新設のご報告

減量手術は患者さまの健康寿命の延伸とQOL（生活の質）の向上に大きく貢献できる治療法です。2016年に当院で減量チームを結成して減量外科手術を開始して以来、累積で600例以上の手術を行い、2024年度の年間手術件数は109件と全国1位となりました。2025年4月から、さらに専門性を高めるべく、糖尿病・減量外科として独立することとなりました。今後も地域の社会の健康増進に貢献してまいりますので、よろしく願っています。



看護部

認定看護師のご紹介



摂食・嚥下障害
看護認定看護師
西嶋 道子

◆ 摂食・嚥下障害看護認定看護師とは ◆

嚥下障害は、脳の病気だけでなく、年を重ねて歩く力がだんだん弱くなるように、飲み込む力がだんだん弱くなることで起こることがあります。

摂食・嚥下障害看護認定看護師の具体的な役割としては、『食べる・飲み込む力（摂食嚥下機能）』を評価することが挙げられます。例えば、患者さまの状況に合わせた食事介助の方法や、口腔ケアがスムーズに実施できるコツ、有効な嚥下リハビリの提案や退院に向けた嚥下サマリー（嚥下機能の状態について経過をまとめたもの）の作成など看護の視点からお手伝いさせていただいています。

私は脳神経外科疾患の患者さまが多く入院する病棟で勤務しているのですが、日常的に食事を摂る場面でお困りの患者さまを多く見てきました。そういったなかで嚥下障害についてもっと深く学び、『口から食べること』を支えたい！と考えるようになり、認定資格を取得しました。

◆ 嚥下回診チーム ◆

当院には嚥下回診チームがあります。

医師・看護師・言語聴覚士・作業療法士・薬剤師・管理栄養士で構成しており、摂食嚥下障害のある患者様のベッドサイドにて摂食嚥下機能評価、食事形態や姿勢の調整、必要時には嚥下造影検査もおこなっています。



食べること、口腔ケアなどお困りのことがありましたら
お手伝いさせていただきます☆



千船病院連携医療機関

もりの眼科診療所

☎ 06-6471-0270

📍 大阪府大阪市西淀川区柏里 2-8-14

医師名 森野 以知朗 先生

【診療科目】眼科

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:30~ 12:30	●	—	●	●	●	担当医
16:00~ 19:00	●	手術	●	●	●	—

土曜日の診療は 9:30 ~ 13:30



【ホームページ】

<https://www.morinoganka.com/>



辻診療所

☎ 06-6472-5550

📍 大阪府大阪市西淀川区姫里 2-1-22

医師名 辻 勝成 先生

【診療科目】内科／外科／胃腸科／肛門科
／消化器内科

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:30~ 12:30	●	●	●	—	●	●
16:30~ 19:00	●	●	●	—	●	—



【ホームページ】

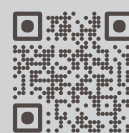
<https://tsuji-srs.com/>



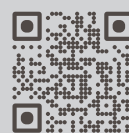
社会医療法人愛仁会 千船病院

〒555-0034 大阪市西淀川区福町3丁目2-39

TEL:06-6471-9541



ホームページ



Instagram